

編輯室の内外

本年の紀元節は皇紀二千五百九十八回に相當し萬世不磨の憲法發布五十年目の此日である、隣邦支那に於ては百戰百勝の戦果を収めつゝあるので三重奏の祝典日であつた。吾々は亦感謝と歡喜とに滿たされた次第であるが、戰時議會は空前未曾有の尨大豫算案は云ふまでも更らなり、各種の重要法案が提出され而かも檢察制度修正問題官界刷新問題の如き國民の大關心を喚起する質問が次から次へ繰返へされる、彼の農地調整法案、電力國家管理法案、恩給金庫法案、國家總動員法案、社會事業法案、商店法案の如き將又臨時軍事費豫算案（四八億五、〇〇〇萬圓）の如き、支那事件特別稅法案の如き國民をして緊張せしむるの案件堆積して帝國議會の重責一段の重きを加へたるものである。貴衆兩院議員の慎重審議を望むこと切なるものである。

試に電力法案に就て見るに其の憲法接觸問題、公用徵收法との關係、立法技術問題等の如き困難なる疑義がある、國家總動員法案に關して企畫院總裁をして時局下憲法論の時期にあらずとの失言事件までも生起したるが如き戰時政治上重大なるものである妄に勢に乗じて事を決することなきを望まざることを得ない。

編輯室の内外

北代議士の「首相は日本憲法の精神をどう考へるか」との質問に對し近衛首相は些の遲疑も躊躇もなく言下に「日本の憲法は英米の民主主義でもなく、イタリー、ドイツの如き所謂フアツシヨ主義でもない。全く日本獨特の憲法である」と答へられた、痛快の言溜飲さがること三斗。

憲法發布五十年年に加ふるに地方自治制（市制町村制）の發布も明治二十一年四月十七日であるから亦五十年年當る、内務方面では當日祝賀式典を執行するの企あると聞く大に祝すべく賀すべきことであるが地方自治の活用力は如何にすべきか。

一月下旬の全國町村長會議で愛國、國防兩婦人會は其の誕生の時を異にするも其の目的と事業は殆ど同様であるのに之が對立關係にあることは考慮の餘地があるとして其の合同の議を決したと善哉々々。更らに赤十字社に婦人部を特設し之を合流せしむるの運動を起しては如何。婦人達は胸量の小を恥ぢて可矣。

今や世界の四分の一は戰亂下に在り國際情勢は愈々險惡なる傾向を呈す、特に最近獨逸密着の噂がある。持つ國々が脅威を感じるは無理ならぬことである。國防の競争再燃するの當然である。此秋英國が世界一と誇るシंगाポール乾ドックは數年の日子と數千萬ポンドの巨費とを投じ漸く竣工した。新極東艦隊の建設も近づいて來た。

又米國は百五十萬トンの建艦策を講じ大海軍力を擁立せんと企つと利己的動機にあらざれば幸甚。

米國下院海軍委員會に於て共和黨下院議員フイツシユは從來の海軍會議を失敗せしめたのは日本ではなく米國である。設令日米海軍力が均等であつても、日本は米國に對しては攻勢を取ることとは不可能であること述べて我日本帝國の不脅威不侵略の信條を認識するの意見を忌憚なく明示した。米國にも知己ありと云ふべきか。親米運動を起して我帝國の意圖を明確ならしめんとするのを見るの今日、個々人の公明なる意見を自由發表し得る所に米國の米國らしい姿のあるを感ぜしめらる。（洗）

定價一部 五十錢
一ケ年分 金 六圓

發行所 東京市麴町區外櫻田町一番地内務省內
社 團 道 路 改 良 會
法 人

電話銀座(7)四二七
東京市世田ヶ谷區代田臺丁目七八〇番
發行所 小 島 效
編輯者 小 島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
常 馨 印刷 所
印刷者 奈 良 直 一